

公共交通の利便性向上へ向けて

Guardian C1252868 渡邊悠斗

A) 他チームの発表を聞いて

どのチームも素晴らしい内容でとても参考になったが特に自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのは、「オムライス」班と「FOODS 班」であった。オムライス班はタイトルからとても惹かれる内容で、光や音を駆使して歩行者の安全を守ったり、事故を減らしたりすることへの繋がりが参考になった。特に今の時期は降雪量が多く、路面がとても見づらいため、そこにまで配慮していることへの視点の広さも参考になった。FOODS 班については、仮想通貨を用いるという発想が自分たちには全くない考えだったので非常に参考になった。ポイントの仕組みを作ることで、バスの利用の促進ももちろんのこと、買い物でも使えるため商店街などの盛り上がりにも繋がると思うのでそういう面から見てもとても良いアイデアだと感じた。どのチームも資料もとても見やすく内容も参考になり、様々な視点から見ていて参考になった。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

自分たちのチームでは、問題の原因として、自家用車への依存、自動車の交通量が多いことを原因として考えていたが、他班の発表を踏まえて、生活圏に商業施設があまりない、道路環境が現状あまりよくないという点を追加する。これらを加えることでより原因の具体性を上げることができるし、よりイメージがしやすいものになったと思う。これらを踏まえると課題は公共交通の利便性という面と、地方都市の生活環境が挙げられる。現状地方都市では車社会が進み、場所によっては公共交通がほとんどない場所や、数時間に一本など公共交通ですら過疎化してしまっていることがある。また、今の時期雪が多く降る降雪地域では、歩くのも困難であり、ほかにも様々な原因が重なって最終的には自家用車に頼らざるを得ないというのが今の社会の現状である。これらを共通して解決するためには、コンパクトシティ化への転換と MaaS のいち早い導入が必要であると思う。コンパクトシティへと転換することで、地方が密集し、日常的な長距離の移動が少なくなり、現在よりも自動車の利用が減るのではないかと思われる。さらに、コンパクトシティにすることで、範囲が狭まり、バスなどの公共交通も現在よりもスムーズになり、利便性が高まることが期待される。また、MaaS を導入することで、さらに利便性が増し、自家用車から公共交通へと移動手段を変える人が増えていくのではないかと思われる。ここに他班が挙げていた、仮想通貨によるポイント制などを加えることによってさらに公共交通の利用への促進へと繋がると思う。さらに将来的にはデジタル技術を駆使したオンデマンド交通の最適化も期待される。AI が利用者の予約状況

から最適なルートをリアルタイムで検出し、無駄のない運行を行うことができる。これにより雪国特有の移動の困難さもカバーすることができると思われる。こうした一連の取り組みは、移動手段を失った高齢者への助けとなるだけでなく、若い世代の人たちを地域に呼び込む鍵にもなり、地域活性化にも繋がる。他グループの発表を聞いたことで、自分たちが思い描いていた理想像により、具体性を見出すことができ、より公共交通の利便性の向上が期待できるようになった。ただし、これらの実現には数多くの課題がある。特にコンパクトシティを実現するには数多くの資金と時間を要することになるだろう。また、オンデマンド交通などを適用するにしてもそれがすべての世代に受け入れられるとは限らないし、公共交通の促進にも人手不足の問題もあるためそういう面にも配慮しなければならない。これらの課題を解決するために地方と市での連携や、二種免許取得の支援などを検討する必要がある。